

第十三回萩原朔太郎賞は荒川洋治さんの『心理』に決定。九月十六日に行つた選考委員会で、最終選考に残っていた六点の中から選ばれ、同日、記者発表を行いました。これまで東京都内で行つていた選考委員会を今回から本市で開催。ここでは、受賞作品や荒川さんのプロフィール、喜びの言葉などを紹介します。なお、賞の贈呈式と記念講演などは、十月二十九日(土)に前橋文学館で行います。

問い合わせは文化政策課 890 6522へ。

「第十三回萩原朔太郎賞」の選考委員会を九月十六日、市役所で行い、高木市長が結果を記者発表しました。これまで、選考委員会は第十回を除き東京都内で行つていましたが、市民の皆さんにより身近な賞とするため、今年は選考委員五人が本市に集まり受賞作品を選出。最終候補作品六点の中から、荒川洋治さんの詩集『心理』が栄えある朔太郎賞に決まりました。選考委員と最終選考に残つて



受賞した荒川洋治さん

# 荒川さんに決まる

## 賞の贈呈式や記念講演など

いた候補者・作品名・出版社は次のとおりです(敬称略)。

### 5人の選考委員(五十首順)

入沢康夫(詩人・評論家・仏文学者)、清水哲男(詩人・評論家)、白石かずこ(詩人)、高橋源一郎(作家・評論家)、司修(画家・作家)。

### 最終候補者と作品(発行順)

稲垣瑞雄『淡きものたちよ』(書肆山田)、荒川洋治『心理』(みすず書房)、井上輝夫『冬ふみわけて』(ミッドナイト・プレス)、高橋睦郎『語るざる者をして語らしめよ』(思潮社)、福岡健二『侵入し、通過してゆく』(同)、倉田比羽子『世界の優しい無関心』(同)。

### 荒川さんのプロフィール

昭和二十四年、福井県生まれ。早稲田大卒業。高校時代に詩誌『とらむべつ』と創刊。大学在学中に第一詩集『娼婦論』を出す。詩書出版の紫陽社を主宰し新人を発掘。昭和五十五年、文筆活動に入る。読売新聞、産経新聞に文芸時評を執筆、朝日新聞書評委員も務める。また、ラジオのコメントーターを務めるなど幅広く活躍中。平成十七年、『新潮』創刊百周年記念『名短篇』を編集した。主な著作は詩集『現代詩文庫・荒川洋治詩集』(思潮社)『あたらしいぞわたし』(気争社)『坑夫トッチルは電気をつけた』(彼

## 心理

新幹線で三島駅を通るたびに

「ああ、もっと勉強しなくては」と 子犬は思う

昭和二十年 終戦の年の十二月

静岡県三島市に「庶民大学」の序章は生まれた

講師は三十一歳の

東大助教授丸山眞男

学生、商店主、農民、主婦、子犬が集まる。

講義の中心は「なぜ戦争は起きたのか。どうして日本人は戦争を阻止できなかったのか」

という根本的自他の冬の問いかけに心えるもので

初回「明治の精神」この日 子犬が集まる

翌年二月から四月は「近代欧州社会思想史」(八回)

十二月は「現代社会意識の分析」(二回) さなかに彼は

雑誌「世界」に「超国家主義の論理と心理」を発表、

漱石の小説「それから」のせりふと

戦争中の軍隊教育令、作戦要務令をとりあわせるなど

の斬新な手法と論理で 戦争に至る

日本の精神史を描き出す

詩集『心理』(みすず書房) 表題作から

方社)『荒川洋治全詩集』(思潮社)、『渡世』で第二十八回高見順賞、評論集『夜のある町で』(みすず書房)、『世に出ないことば』(同)、『空中の茶室』で第五十一回読売文学賞、『忘れられる過去』で第二十二回講談社エッセイ賞を受けている。

『水駅』で第二十六回H氏賞